

中国は、11月23日、尖閣諸島を含む日本の防空識別圏(ADIZ)や韓国のそれともオーバーラップする空域を中国のADIZとして設定したと発表し、一気に東シナ海空域が緊迫してきた。

中国の狙いは尖閣諸島や韓国との係争の地でもある岩礁に対する領有権の主張であろう。ADIZ本来の設定目的と違う狙いで設定したと思われる。空域の特性上、領空の外側に識別圏を設定するのは当然の権利であるとしても、今回の中国のような設定は全く許せるものではない。

以下幾つかの論点を整理し、私見を述べる。



- ① 中国の狙いは、尖閣諸島等の領有権主張であり、領空と同じような認識で設定している。

従って、状況によっては武力をも行使することを示唆している。力をつけた中国が現状打破を狙っている。力による現状変更を決して認めてはならない。それが国際社会のルールである。

- ② 日本政府が直ちに抗議したのは当然だし、広く国際社会に中国の無軌道ぶりを知らしめるべきだ。米国との緊密な連携が極めて

重要だ。

日本航空や全日空がフライト・プランを中国に提出しようとして政府(国交省)に止めさせられたが、当然である。国益を損なうこと甚だしい。そもそも民間航空機の公海上空の航行の自由は保障されている筈だ。管理されている管制圏域通過に際してはフライトプランは当然提出することとなっており、それを遵守すれば事足りる。中国を利するような行為は止めるべきだ。利敵行為になるとの真つ当な判断が出来ないのだろうか? 政府の方針と食い違いの可能性がある場合には少なくとも協議すべきである。

- ③ 中国の強面路線の明確化、国際ルール無視の行為に、中国異質論が沸騰することは必至だ。

- ④ 不測事態発生時の協議体制構築の要あり、対応に比較的余裕ある海域での遭遇とは異なり、予期し得ない事態が発生する可能性が高まった。

- ⑤ 中国国務省のフライト・プラン提出容認に対し、日本は困惑している？出すように要請はしていないと云うが、何故か国務省は弱腰のようだ。伝統的に中国に対して宥和的な態度を採ってきたのが国務省だ。注意深く状況を確認すべきだ。
- ⑥ 副大統領来日に合わせ、緊密に連携内容をすり合わせるべきだ。譲歩は日米にとってマイナスとなる。米国の本気度が試されている。国防省と国務省では対応にニュアンスの差があるようだが、先ず、政策の擦り合わせを行って欲しいものだ。日本は過去に何回か米国に煮え湯を飲まされた苦い記憶があるが、そのようなことが起きぬよう日本の努力が望まれる。日米の防衛協力等の態勢は強固だが、それを維持・強化する必要がある。
- ⑦ 日本は腰砕けにならぬよう、冷静かつ毅然と対応すべき。通常通りに監視飛行等は継続すべきだ。政府が直ちに対応したのは良かった。民主党政権だったら、どうしただろうか？
- ⑧ 何れにしても、現在までの警戒監視体制を継続し、或いは必要な強化を行い、中国に事実上 ADIZ を撤回させるしかないのだろう。中国が日・米の要求に従って撤回する可能性は微塵もない。とすれば、日米の結束力と実力を見せつけるしかない。中国政府や軍が、国内向けにどのように言い訳するか、それは彼等が考えることだ。
- ⑨ 中国の国内要因の影響も大であるかもしれないが、だからと言って、許されざる暴挙だ。
- ⑩ 国際社会との連携を重視した外交を行うべし。  
一番困惑しているのは韓国だろう。中国を見誤ったと知るべきだ。日米韓連携の方に舵を切らざるを得ないだろうが、現政権の求心力は急速に弱まるだろう。それはある意味では日米にとってもマイナスであるが、韓国が今回の件で大事なことを学んだのであれば、それも良しとしよう。
- ⑪ 領空に侵入する可能性のある航空機に対してスクランブルを行うのが、通常だが、中国のは明らかにそれを逸脱しており、領空侵犯対応にも相当する。
- ⑫ 「中華民族の偉大な復興」を目指す習近平政権は、求心力を喪失しつつある？偉大な中華などという見果てぬ夢等を振りかざさなければならぬほど追いつめられつつある。
- ⑬ 中国が力をつけて、ADIZ を設定したいのであれば、関係国と協議するのが先ずなすべ

き事項だ。一方的すぎる。管制圏との整合性を取るべきだろう。

- ⑭ 中国にそもそも、設定空域の監視能力があり、且つスクランブルを行うだけの体制や能力があるかも疑問視されている。
- ⑮ ICAO 理事会は、日本の提案を受けて中国の ADIZ 設定問題を検討することとなった。日本の今回の対応は迅速で良かった。